

# 皮膚科学

責任者：皮膚科学講座 天野 博雄 教授

## 学習方針（実習概要等）：

皮膚科では、皮膚・皮膚粘膜移行部・粘膜を診察する。アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎をはじめとする湿疹・皮膚炎群、血管炎、膠原病、乾癬、水疱症、皮膚感染症などの炎症疾患から悪性黒色腫・有棘細胞癌・基底細胞癌・血管肉腫などの悪性腫瘍と皮膚良性腫瘍に至るまで、幅広い疾患の診断と治療を行う。また、美容皮膚科も扱う。これらの疾患について基本的な事項について知識を習得することを目標とする。

## 教育成果（アウトカム）：

皮膚疾患に対応するためには、内科学・外科学・病理学・微生物学・免疫学・その他の広範な知識、さらに倫理的概念や医師としての基本的態度、協調性が必要である。これらを習得することで、皮膚科が心身を包括的に診ることが必要な診療科であることを理解し、General physician に求められる皮膚科診療の基本事項をマスターすることができる。

（ディプロマポリシー：1,2,3,4,5,7）

## 到達目標（SBOs）：

- \*1. 病歴で診断のおおよその見当がつけられるような問診ができる。
- \*2. 発疹学の用語を使って皮疹の記載ができる。
- \*3. 病歴と現症から鑑別疾患を挙げることができる。
- \*4. 皮膚の診察法（硝子圧法、皮膚描記法、Auspitz 現象、Nikolsky 現象、Darier 徴候、Köbner 現象など）を体験・理解し説明できる。
- \*5. 皮膚の検査法（真菌鏡検、皮膚生検、パッチテスト、発汗テストなど）を体験・理解し説明できる。
- \*6. 皮膚科治療（軟膏療法、創傷処置、光線療法、凍結療法、手術、レーザー治療など）を体験・理解し説明できる。
- \*7. 皮膚科救急処置（熱傷、蕁麻疹、蜂刺され、ショックなど）につき述べることができる。

## 特に留意すべき注意事項：

1. 患者さんが不快になる態度・身なりは厳に慎むこと。私語、腕組みや足組み、白衣のポケットに手を入れる、名札を下げない、白衣のボタンをかけない、など。
2. 患者さんに自己紹介をして、きちんと挨拶ができること。
3. 教科書を持参すること。

4. ポリクリ実習は担当医師の都合により時間を変更することがある。予め、担当医師に問い合わせること。また、指導医とは緊密に連絡をとるようにすること。
5. 実習内容は以下のとおり行う。
  - (1) 外来で新患者の予診をとり、病歴・所見の取り方、鑑別診断の考え方を実地で学ぶ。症例に応じて、皮膚生検・パッチテストなどの検査にも参加する。
  - (2) 入院患者を一人受け持って、担当医の指導のもと手術や処置に参加する。毎週水曜日の教授総回診でプレゼンテーションを行う。
  - (3) 医局の症例検討会、その他の抄読会など勉強会に参加する。

#### **事前学修内容および事前学修時間：**

シラバスに記載されている各実習内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行い、医療面接・診察など基本的臨床技能実習で修得した手技について再確認をすること。また、実習前にeポートフォリオ（WebClass）「日々の振り返り 今日の目標」にて、事前学修内容を踏まえた自己到達目標を設定し実習へ臨むこと。各実習に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全実習に対して該当するものとする。なお、適宜eポートフォリオ（WebClass）を通し個人に対する実習のフィードバックを行う。実習では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

## 第4・5学年臨床実習スケジュール[皮膚科学]

指導医師名：①天野博雄教授 ②馬場俊右講師 ③渡部大輔講師 ④大西正純講師

曜	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限
月	オリエンテーション	外来実習	皮膚の基本構造と皮膚病理	皮膚の基本構造と皮膚病理、 症例検討会
[場 所] [指導医]	[医局] ③④	[外来] ③	[カンファランス] ②③④	[症例検討会・予演会など] ①②③④
火	外来実習	外来実習	手術見学	手術見学
[場 所] [指導医]	[外来] ①	[外来] ①	[手術室] ③④	[手術室] ③④
水	病棟実習	外来実習	術前カンファランス 病棟教授回診	症例のまとめ・褥瘡回診
[場 所] [指導医]	[西3] ③④	[外来] ④	[西3] ①②③④	[医局]・[病棟] ②③④・②
木	外来実習	外来実習	皮膚生検と外科手術	皮膚生検と外科手術、 口頭試問・抄読会
[場 所] [指導医]	[外来] ①②	[外来] ①②	[外来、手術室] ③④	[外来、医局] ①②③④
金	外来実習	外来実習	まとめ・評価	まとめ・評価
[場 所] [指導医]	[外来] ②	[外来] ②	[医局] ②③④	[医局] ②③④

## 授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	台数	使用目的
診断用機械	顕微鏡	4台	皮膚病理標本の観察、真菌検査等
視聴覚用機械	スライド映写機	2台	症例の供覧、学生の症例発表等。
診断用機械	紫外線照射装置	3台	種々の炎症性角化症、悪性リンパ腫などの疾患治療に用いる。
診断用機械	パッチテスト試薬器具一式	一式	接触皮膚炎、薬疹や金属アレルギーなどの診断に用いる。
診断用機械	液体窒素	1台	疣贅の治療に用いる。
診断用機械	真菌検査用具一式	一式	白癬、カンジダ症などの真菌治療の診断に用いる。
診断用機械	硝子圧など	一式	紅斑、紫斑の鑑別に用いる。
診断用機械	レーザー照射装置	1台	しみ、皺など皮膚の美容治療に用いる。
視聴覚用機械	PC一式 (PowerMacG5)	2台	臨床実習講義用スライド作成
視聴覚用機械	ノート型PC (PowerBookG4)	1台	臨床実習講義用スライド作成
診断用機械	密閉式水分蒸発量測定器 (H4300-S)	1台	臨床実習における皮膚生理機能測定実習
視聴覚用機械	デジタル一眼レフカメラ (EOS-10D)	1台	臨床実習講義用スライド写真撮影
視聴覚用機械	PC一式 (M9249J/A)	1台	臨床実習講義用スライド作成
視聴覚用機械	一眼レフ対応ダーマフォトモジュール	1台	臨床実習講義用スライド写真撮影
視聴覚用機械	ノートパソコン (インスパイロン 6000 インテル)	1台	臨床実習における症例検討
視聴覚用機械	コスメテックレーザーシステム一式 (キュリアPLUS)	1台	美容皮膚学における症例検討
視聴覚用機械	複写機 (imagioNEO C455/75)	1台	臨床実習における症例検討
視聴覚用機械	パソコン (iMacG5)	1台	臨床実習における症例検討
視聴覚用機械	ノートパソコン一式 (PAVX570LS)	1台	臨床実習における症例検討
視聴覚用機械	パワーステーション 1000VC (AE-8450)	1台	臨床実習における症例検討
視聴覚用機械	パソコン (MacBookPro15.4Inch)	1台	臨床スライド画像作成
視聴覚用機械	顕微鏡デジタルカメラ (DP70-SET)	1台	病理スライド画像作成
視聴覚用機械	超音波皮膚皮下組織計測装置解析装置 (DermaScanC)	1台	臨床実習における腫瘍症例検討
視聴覚用機械	パソコン (VAIOtypeUVGN-UX70)	1台	皮疹画像記録用
視聴覚用機械	パソコン (2.0GhzIntelCoreDuo)	1台	皮疹画像記録用
視聴覚用機械	超音波皮膚皮下組織計測装置 (DermaScanC スキャニング本体)	1台	臨床実習における症例検討
視聴覚用機械	フィルムスキャナー (ケルスカン 9000ED)	1台	スライド (症例) 資料の学生への提示
視聴覚用機械	倒立顕微鏡 (CKX41N-32PH)	1台	水疱症標本の学生への提示
視聴覚用機械	ノートパソコン一式 (Mac2.16GHz)	1台	臨床実習の症例提示
視聴覚用機械	パソコン一式 (MA876J/A)	1台	〃
視聴覚用機械	フィルム収納箱 (KJ-0147-01)	1台	臨床実習の症例提示用
視聴覚用機械	デジタルカメラ (DSCT200)	1台	講義・実習用スライド写真用
視聴覚用機械	デジタルカメラ (1030SW)	一式	〃
視聴覚用機械	デジタルカメラ (EOS40D)	1台	〃

## 教科書・参考書等：

- ・皮膚科カラーアトラス第3版 臨床像と組織像 石川 治 編著 中外医学社 2017
- ・新しい皮膚科学 清水 宏 中山書店 2018
- ・皮膚病アトラス5版 西山茂夫

## 成績評価方法

臨床実習評価は以下の項目について 100 点満点で評価する。

1. 知識：15 点
2. 態度：20 点
3. 技能：10 点
4. 問題解決能力：15 点
5. 技能試験：10 点
6. 指導医評価：10 点
7. ポートフォリオ：20 点